

2023 全然堂歳時記 秋

【秋の暮】

20句

2023年11月25日 発

10行2段12ポ 桐10

神々も寂しかりしや秋の暮 灯せば明るくなりぬ秋の暮
沖縄も暮れて日本の秋の暮 秋の暮 橋を渡るは寂しかり
屋上のコンクリートの秋の暮 対岸もやがて途切れて秋の暮
校庭に人影長し秋の暮 ふる雨に流れ解散秋の暮
原っぱも喇叭も消えて秋の暮 空腹の家路しみじみ秋の暮
缶けりのかんからかんと秋の暮 鍋底のテフロン黒し秋の暮
町の子に町の寂しき秋の暮 胡麻の香の金平牛蒡秋の暮
残りたる子らで遊べり秋の暮 点線の終点は点秋の暮
かあかあと鴉が鳴いて秋の暮 まだ降りしことなき駅の秋の暮
秋の暮さびしがり屋を虜にす この町に産科の灯あり秋の暮



あきのくれ

もハートエッセイ 2023.11.25

2019 全然堂歳時記 秋

【夜長】

20句

2019年10月17日 発

10行2段12ボ 桐9

暑くもなく寒くもなく夜長なり 長き夜にしばし赤子の良き眠り
眠るもよし眠らぬもよし夜は長し 長き夜の白き布巾の布巾掛
長き夜は虫に任せて早寝せむ 黒で書き赤で書き足す夜長かな
長かりし夏を忘るる夜長なり 句の屑をくしやと投げ打つ夜長かな
長き夜の中に昨日も今日もある 長き夜をお化けと遊ぶ物語
飛行機は長き夜を行く孤独な灯 書に遊ぶ人へ夜長のミルクティー
長き夜を線香の火の沈みゆく 而して頁を捲る夜長かな
歯車の遅速の刻む夜長かな 深々と余韻に浸る夜長なり
長き夜の胡麻を圧して胡麻油 寝落ちたる人と夜長を同じうす
スポンサー途中で替る夜長かな 長き夜を余すことなく眠りけり



長き夜、夜は長し等も

モ
ハードエビ
2019
10
17

2020 全然堂歳時記 秋

【月】

つき 20句

2020年9月15日発

10行2段12ボ桐9

赤々と月の出を待つ夕焼かな 一駅を歩いて月の僕かな
髪乾くまで月の出を待たせある 中庭の木のとてらと月の宿
虫籠を闇に沈めて月を待つ 座布団に坐してこれより月の舟
人待つや月の光を浴びながら 月の波蟹を拐つて行きにけり
ふる雪もちる花もなき月夜なり 故郷の月のおはぎを思ひつつ
けふの月あしたの月や日々の月 蓋あけて月の光のオルゴール
名を変へて刻を違へて月上る 真夜中の月夜の日本大使館
満ち欠けの欠けを楽しむ月とこそ すすやすやと草木の眠る月夜かな
満月や永遠に零るる崖の土 明月はけふ明日はあしたなり
屋上に駐車場あり今日の月 お日さまが遠くに消えてお月さま



全然堂歳時記
2020年9月15日発

2020 全然堂歳時記秋 【流れ星】

14句

2020年8月29日発 7行2段12ボ桐9

いにしへの奈良の都の流れ星 湯あがりの赤子ひやすな流れ星
音もなく時は流れて流れ星 夜なべする人の居眠り流れ星
流れ星ただ一筋に光るなり 流星や修行の僧の大嚏
一の糸そして二の糸流れ星 この山が例の古地図の流星の
流星や生れたるものは水にぬれ 流星は命の如し死の如し
言葉から零るるは何ながれ星 流星の静かに眠る湖の底
流星や軽く闇夜を刺すやうに 流星や柱の中に錆びし釘



ながればし
流星・りゆうせい

④
2020年8月29日

2023 全然堂歳時記秋

【流れ星2】

20句

2023年10月29日発

10行2段12ボ桐10

神山の滴る如し流れ星頼杖のふと外れたる流れ星
満天の星に送られ流星は流星や奇跡はある日突然に
星は点、流星は線、光るなり流星と運動場に生えし草
大気圏突入注意流れ星流星に潮吹き上ぐる鯨かな
星座にはなれぬ嘆きの流れ星菜箸の長き直線流れ星
栄光の長き尾を引く流れ星流星の豊かなる夜のコンサート
流星や名も無きままに輝きて九回の裏へと流れ星あまた
流星や一寸先の闇に消ゆ老人や流星群の中に座し
一瞬を流れて永遠に消ゆる星命終に一つは欲しき流れ星
まだ文字を知らぬペン先流れ星流星の降り止まぬ日がいつか来て



peace!



ながれぼし
流星Ⅱりゅうせい
を含む

ハードエッジ
20231029

Hi-uni 10B

2022 全然堂歳時記秋

【夜食】

20句

2022年9月11日発

10行2段12ポ桐10

買ひに行く夜食弁当月丸し院生に大学芋の夜食かな
社員食堂夜食の前の静けさにダンサーに夜食の鮭の届きたり
食堂の一角灯る夜食かな鮭少し乗せて夜食の鮭茶漬
どかどかと夜食食らひに來りけり煮魚の甘つたるきを夜食かな
かつこむは丼飯の夜食なり虫の音のいつしか消ゆる夜食かな
箸の夜食も匙の夜食も姦しき急患に夜食なかばで呼び出され
夜食の匂うかぶ夜食の箸とまる盗人の軽く済ませし夜食かな
ペラペラと夜食弁当片付ける反証に仮説あやふし夜食冷ゆ
ドガとその踊子たちの夜食の絵眠たさの夜食つまみつ乳飲ます
かたはらに夜食代りのチョコレートあきらめて夜食もとらず寝ねにけり



prayer



やしよく



トードエッジ

2022

9/11

Hi-ni 10B

2022 全然堂歳時記 秋 【終戦日】

20句

2022年8月15日 発

10行2段12ポ 桐

玉砂利の上に八月十五日 壇上に菊花山なす終戦日
 玉音にみな夏痩せてゐたりけり 白黒の間の黄色終戦日
 万骨のそして我らの終戦日 人種みな平等の夢敗戦日
 女の子たくさん燃えて終戦日 植民地解放成らず敗戦日
 絵日記もその子も燃えて終戦日 あやまちは勝たざりしこと終戦日
 苦しまず死せりと遺髪終戦日 空青く山みどりなる終戦日
 都市燃えて遠くの見ゆる終戦日 終戦日大きなシートはためかせ
 蟬のごと死せる機関車終戦日 カルピスの水玉模様終戦日
 校庭に終戦の日の土埃 終戦日ゆふやけ赤くうつくしく
 畳ごと団扇の燃えて終戦日 悪魔の手借りし米国戦勝日



peace



敗戦日・八月十五日を含む
夏瘦・米国戦勝日を併録

モ
ハート
2022
8
15

町の名の古風に長し松手入空襲を知る人もなし松手入
お屋敷の音にこそ聞け松手入
二三日切られの松の松手入
松手入松の緑を滴らす
切る音も切らるる音も松手入
手入良き缺なるべし松手入
けふは城あすは図書館松手入
その跡を巫女の掃きをる松手入
もれ出づる月の光や松手入
池に雨松の手入も済みたるよ

松手入

松の緑を

滴らす

ハードエッジ

2017.11.10

2023 全然堂歳時記秋【虫】 20句

2023年11月11日発 10行2段12ポ桐10

鳴く虫の代替りして今年また 童謡が「あれ」と歌ふよ虫の声
台風の大きく逸れて昼の虫 秋の夜にああおもしろい虫の声
タクシーの出払つてゐる昼の虫 暗闇に緑の虫の鳴けりけり
夜行バスの洗車の雫昼の虫 下駄箱に長靴長し虫の声
鳴き通す図書館裏の本の虫 火落して湯舟の孤独虫の闇
虫愛づる姫君とその物語 鳴く虫に鳴かざる虫に命の夜
切株を励ます如く虫時雨 この頃の虫の弱音や数も減り
鳴く虫のリリリの中のリルルかな 鳴き鳴きて今朝なきがらの籠の虫
鳴く虫のこれは月見の虫らしき 鳴く虫の鳴かなくなれば横倒し
鳴く虫も月に力を得たりけり 鳴く虫も鳴かざる虫も果ててなし



peace!



むし

モトドエジ 2023 11 11

2023 全然堂歳時記秋

【鴟の贄】

20句

2023年10月23日発

10行12ボ桐10

新しき有刺鉄線鴟の贄
鴟の贄死後を明るく枝の先
見晴らしの良きに刺されて鴟の贄
地に影の届かぬ高さ鴟の贄
蛇蛙蜥蜴蠛螂鴟の贄
鴟の贄土に還るを許されず
のびのびと長き蛙や鴟の贄
鴟の贄鴟の贄鴟の贄鴟の贄
鴟の贄鴟の贄鴟の贄鴟の贄
まだ水の滴るものを鴟の贄
贄いくつ忘れし鴟の高音かな
もげさうな頭を庇ふ鴟の贄
日に一度夕日を浴びて鴟の贄
ふつくらと腹を刺されし鴟の贄
枝の先に月の出を待つ鴟の贄
皮付のままに乾びし鴟の贄
高き枝に月の友あり鴟の贄
長き尾を垂るる哀れや鴟の贄
鴟の贄月の光に冷ゆるかな
目口鼻胴体手足鴟の贄
年越すや乾び尽せし鴟の贄

peace!



もずのにえ

モ
ヒート
ヒット
2023
10
23

臍の緒の長く伸びたる西瓜かな流水に回転中の西瓜なり
 地下水を汲み上げてゐる西瓜なり包丁が西瓜に挑む心意気
 地下水をタンクに貯めし大西瓜包丁も西瓜を切つて喜べり
 どすんどすんと置かれし如く西瓜畑何か我頼もしきかな西瓜切る
 抱へたる西瓜の縞の放射状塩ふつて汗を補ふ西瓜かな
 兵器庫の如く西瓜を縦横に子は膝のタオルに西瓜したたらせ
 切られるか叩き割られるかの西瓜素麺に添へて西瓜の箸休め
 丸ごとの西瓜巻き取る象の鼻新月や西瓜に迫る謀
 謎の輪は西瓜の尻に敷くらしき翌朝の西瓜の皮に力なく
 孕みたる如く西瓜を抱へ来る人類が西瓜の縞を読み解く日

すいか



20 全然堂歳時記秋

【葡萄】

ぶどう

14句

2020年9月27日発

7行2段12ボ桐9

夏は西瓜秋は葡萄の種を吐き夜空より紫紺滴る葡萄かな
針金の逞しき張り葡萄棚紫も緑も黒も葡萄なり
葡萄まだ小文字の○の大きさに二三粒葡萄沈みし洗桶
砂時計の砂の静けさ葡萄垂る黒雲の如き葡萄が皿の上
恋人と葡萄の園に昼寝して灯を少し暗くして食ふ葡萄かな
紫の雨に煙るや葡萄園食べ終へて骨格残る葡萄かな
盆地の灯ぱらぱら消ゆる葡萄かな園閉ざすころには雪か葡萄村



モーターハウス 2020.9.27

20 20 全然堂歳時記 秋【柿】かき 14句

20 20 年 9 月 5 日 発 7 行 2 段 12 ボ 桐 9

日本に神の名多し柿の名も 桃は啜り林檎は嚙り柿はさて
駅よりも農家が立派柿たわわ 食べ飽きて柿に寛ぐ稲雀
寺の柿も役場の柿も鈴生りに 柿食つて鴉の羽根のまつ黒な
婚の荷でありし柿の木祖母の庭 日は空を焼いて真つ赤や柿の秋
仏壇に柿を供へて菊を生け 柿の木の花わわを月に供へけり
柿の蒂はなびらよりも欠けやすき 切りたての切株に積む柿の山
入りし刃にシクと切られし柿の種 柿たわわ日本の村の滅びつつ



柿の種
MOMOYAMA

2022 全然堂歳時記 秋 **【林檎】** 20句

2022年11月5日発 10行2段12ポ桐10

旅ゆけば秋田青森りんご晴れ 白妙の林檎の齒型見せに来る
青森に林檎を買ひし夜汽車かな こんな夜は居間で林檎を剥いてやる
王・金・紅の林檎売場や富士もある 見て見たと小学四年りんごむく
とりどりに林檎なで肩いかり肩 紅白に林檎の皮の剥かれゆく
紅玉は昔の林檎とは言へど 包丁に林檎の種がくつつ付きぬ
紅玉と答ふ林檎の好きな人 林檎すりおろして作るジュースなり
可愛やとリンゴの唄の流行りし頃 しりとりのでりんごが誘ふごはんかな
林檎箱にも今昔の思ひあり しりとりはみかんで負けてりんご剥く
PCに林檎噛るも縁かな 動物園のバケツで配る林檎かな
林檎丸噛りを梨の羨みぬ この牛は林檎も食うて健やかに



りんご

モートドエフジ 2022